

平成27年度

自己点検・自己評価
学校関係者評価

報告書

学校法人 トヨタ神戸整備学園
専門学校

トヨタ神戸自動車大学校

【評価委員】

氏名(敬称略)	会社	部署・役職
村上 尚史	トヨタ自動車(株)	国内サービス部 統括室 係長
三宅 敏文	兵庫トヨタ自動車(株)	総務部人材育成グループ 課長
宮尾 敏也	神戸トヨペット(株)	営業本部技術グループ 主任
中川 幸士	ネッツトヨタ兵庫(株)	サービス営業部 係長
日下部 幸輔	サンワテクノクラフト(株)	—

【任期】平成27年4月1日～平成28年3月31日

【学校側出席者】

氏名	部署・役職	氏名	部署・役職
大塚 生介	理事・校長	杉原 徹	自動車整備科第1教育室 室長
高木 一人	理事・教育部長	長澤 哲也	自動車整備科第2教育室 室長
山口 裕行	理事・学生部長	谷川 嘉夫	高度自動車科教育室 室長
大田 英一	総務部次長		

目次

1-1 理念・目的・育成人材像.....	1
2-2 運営方針.....	3
2-3 事業計画.....	4
2-4 運営組織.....	5
2-5 人事・給与制度.....	6
2-6 意思決定システム.....	7
2-7 情報システム化.....	8
3-8 目標の設定.....	9
3-9 教育方法・評価等.....	10
3-10 成績評価・単位認定等.....	12
3-11 資格・免許取得の指導體制.....	13
3-12 教員・教員組織.....	15
4-13 就職率.....	17
4-14 資格・免許の取得率.....	19
4-15 卒業生の社会的評価.....	20
5-16 就職等進路.....	22
5-17 中途退学への対応.....	23
5-18 学生相談.....	25
5-19 学生生活.....	27
5-20 保護者との連携.....	29
5-21 卒業生・社会人.....	30
6-22 施設・設備等.....	32
6-23 学外実習・インターンシップ等.....	34
6-24 防災・安全管理.....	36

7-25 学生募集活動	38
7-26 入学選考	40
7-27 学納金	41
8-28 財務基盤	42
8-29 予算・収支計画	43
8-30 監査	44
8-31 財務情報の公開	45
9-32 関係法令・設置基準等の遵守	46
9-33 個人情報保護	47
9-34 学校評価	48
9-35 教育情報の公開	49
10-36 社会貢献・地域貢献	50
10-37 ボランティア活動	51

1-1 理念・目的・育成人材像

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	学校運営の基本的な考え方を示すもので、明確に定める必要があり、外部にも周知を行う	なし	定めており、文書化している。保護者、高校生向けにホームページや学校案内パンフレットに記載している。	なし
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	関連企業のニーズを把握し、それに沿った育成人材像の構築を行い、明確に定める	高度自動車科においては、教育工程への構築が不十分であり改善・実施が必要。 ⇒「自ら考え行動する」ための動機付け教育、知識・技術・技能の習得度確保策の展開、効果的な一般教養科目の改善に取り組んでいる。	自動車整備科、高度自動車科とも育成ビジョン（目標人材像）を定めている 高度自動車科では4年一貫での教育工程を整備し、展開中。 自動車整備科では早期退職減少に向けた一般教養科目を追加実施。	・企業訪問、企業アンケート、卒業生アンケートなど定期的に実施し改善に取り組む ・今年度実施した一般教養科目を効果確認し、改善に取り組む
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	トヨタ系企業への就職を軸に、即戦力となり得る人材育成に向け、充実した設備、教材、教育内容等を備える	今後も社会の変化、ニーズを鑑み、教材の充実やカリキュラム改善に取り組んでいく。 ⇒高度診断機GTS 6台、N型ベンチエンジン14台購入など教材の充実に取り組んでいる。教育内容は習得目標を明確にして展開。	トヨタ自動車創立校として、トヨタ車を教材とし、高難度診断機器の取り扱いやハイブリッド車対応等に取り組んでいる。設備も更新に取り組んでいる。 ビジネス演習室の更新、高度診断機GTS 16台、ターボエンジン車・コモンレールディーゼルエンジン車・MIRAIなどを新規導入。	なし
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	定期的に社会のニーズ、卒業生評価等企業と連携しながら教育の改善を進める	なし	一度、2006年に見直しを行い、設立時に定めた内容を継続している。	なし

中項目総括

- ・理念・目的・育成人材像等は、具体的に分かりやすく示されている。
- ・2006年に見直しを実施したが、「変更しなくてよい」との結論を得て現在に至っている。
- ・トヨタ自動車創立校の強みを活かした教育も実践出来ている。高度自動車科においては育成人材像に対して教育工程の構築が不十分であったが、改善に取り組んでいる。
- ・教材も高度診断機器GTSを始め、今後も時代・社会ニーズを定期的に把握し、設備・教材・カリキュラム等適宜検討・改善する。
- ・また、保護者、高校生向けにはホームページや学校案内パンフレットに記載している。新入生に対しても4月オリエンテーションで冊子を用いて展開、周知を行っている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
新技術に関してのターボ、コモンレール、MIRAI等の導入は進んでいるようだが、ベンチエンジン等の大型教材のメンテナンスは行われているのか？ また、GTSは大半の学生がトヨタ販売店に就職する自整科においても必要と思われるが16台では不足していないか？	ベンチエンジンのメンテナンスは入手が難しい部品等もあるが定期的に修理を行っている。GTSは昨年度16台導入し、合計44台保有しており高度科32台、自整科12台保有しているので現状は不都合なく授業は行えている。

2-2 運営方針

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	教育活動、学校運営の根幹となる設立目的・教育目標とともに運営方針を定め、全教職員に周知、浸透を図る。	毎年2回学生アンケートを実施し、学生の評価も活用した運営方針の改善に取り組む。 ⇒運営方針に沿って学生アンケートからの声も反映させ、改善に取り組んでいる。	設立目的・教育目標とともに運営方針を定め、学内HPに掲載する等全教職員に周知し、毎年教育活動、学校運営を行っている。 ⇒年度の事業計画、各部年度方針に反映させ、取り組んでいる。	なし

中項目総括

・開校時、設立目的・教育目標とともに運営方針を定め、現在までの教育活動、学校運営の根幹として教職員に周知徹底を図っている。今後も社会の変化に即して見直しも必要であるが、現状においては変更する必要はなく継続しており、年度の事業計画、各部年度方針の拠り所として運用している。しかし、学生の学校評価に対して的確に対応していく必要がある。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

2-3 事業計画

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ（前年度評価時）課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	毎年度事業計画を策定し、理事会・評議員会の承認を経て執行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画は単年度のみ作成しているが計画通り完遂できていない。部方針の中間点検で実施が遅れている事項は、再スケジュールを行い期末までに完遂させる。 ⇒未実施 ・全校的な中期計画はないが、必要な項目について今後個別に検討する。 ⇒27年度部方針に3カ年の目標を盛り込むこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度事業計画に基いて各部で部方針を策定し、項目毎に主担当、スケジュール、達成目標を定め執行体制を明確にしている。また方針の中間点検等により進捗確認している。 ・H27部方針では総務部のみ3カ年目標を盛り込んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画は単年度のみ作成しているが計画通り完遂できていない。部方針の中間点検で実施が遅れている事項は、再スケジュールを行い期末までに完遂させる。 ・全体的な中期計画はないが、必要な項目について今後個別に検討する。

中項目総括

<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画は毎年度策定し、理事会・評議員会の承認を経て執行している。さらに事業計画を達成するため各部で、具体的な部・室方針を策定し、項目毎に主担当、スケジュール、達成目標を定め執行体制を明確にしている。 ・事業計画、部方針は単年度のみ作成しているが計画通り完遂できていない。中間点検で進捗遅れの事項は、年度内に完遂にむけ再スケジュールを明確化する。 ・全校的な中期計画はないが、必要な項目については部方針に3カ年の目標・計画を盛り込むこととした。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
<ul style="list-style-type: none"> ・総務部のみとなっているが、どのような計画を盛り込まれたのか？ ・総務のみが計画しており、他部署が計画していないが問題ないのか？ 	<p>学校全体の3カ年計画はないが、今年度は各部の年度方針において必要な項目においては3カ年の目標も掲げるとしたが、周知徹底が不足し、総務部外においては記載されていない状況となった。</p>

2-4 運営組織

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	寄付行為に基づき理事会・評議員会を開催し、組織運営に関して適切に審議・承認を行い円滑に法人・学校の組織運営を行う。	・5月理事会評議員会は外部の出席が少ないため、3月理事会終了後に事前案内を発信するとともに電話にて確認を行う。 ⇒2月末、5月開催日程が決まり次第各社に電話連絡した。	・寄付行為に基づき理事会・評議員会を年2回定期開催（3月：事業計画・予算、5月：事業報告・決算）し、さらに必要な場合は臨時開催している。 ・5月理事会評議員会の外部役員・評議員の出席者数は増加している。	・3月理事会終了後に事前案内を発信するとともに電話にて確認を行う。
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	業務分担、職制が明確な組織体制で円滑な学校運営を行う	なし	・校長の下に教育部・学生部・総務部の3部において学校運営を行っている	特になし

中項目総括

- ・法人組織においては、寄付行為に基づき適正に理事・監事・評議員の選任を行い、理事会・評議員会を定期的に開催している。寄付行為の他に「理事会の権限移譲に関する規則」を定め、決裁基準を明確にしている。理事会・評議員会は議事録も作成・保管している。
- ・学校運営は、校長の下に3部（教育部・学生部・総務部）をおき円滑に運営を行っている。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

2-5 人事・給与制度

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	人事・給与については就業規則・給与規則、それに沿った内規を定め運用する。 採用・人事考課・昇級・昇給については規則・内規に従って運用する。	・65歳までの継続雇用制度は導入したが、今後その実施・運用の実態に応じた改善が必要。 ⇒再雇用者の処遇は担当業務に対応した賃金を個別に決定することとした。	・人事考課・昇級・昇給等人事制度は規程に基づき毎年定期的実施している。 ・採用は中期的な要員計画に基づき、毎年1～2名の新卒採用(教員)活動を行っている。	なし

中項目総括

- ・人事・給与(人事考課・昇級・昇給等)は規則・内規を定め制度化できている。
- ・高齢化に対応するために、65歳までの継続雇用制度・55歳役職退任制度を26年度に導入したが、今後その実施・運用の実態に応じた改善が必要である。再雇用者の処遇は、担当業務に対応した賃金を個別に決定することとした。
- ・教員の採用は中期的な要員計画に基づき、毎年1～2名の新卒採用を行っており適正な人員は確保できている。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

2-6 意思決定システム

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・意志決定の最高機関である理事会及び「権限移譲に関する規定」に基づき意思決定を行う。 ・寄付行為、りんぎ規定で基準を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決裁サイクルについては、引き続き徹底を図る。また、今後書類の書式についても見直しの検討が必要。 ⇒周知徹底とあわせ購入依頼書は押印欄を追加し押印漏れをなくした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2回／年理事会を開催し事業計画・予算、事業報告・決算等の承認を得ている。 ・寄付行為、りんぎ規定を定め運用している。 ・決裁書で中間職制の決裁押印のないケースは解消されている。 	なし

中項目総括

- ・理事会・寄付行為・理事会の権限移譲に関する規定・りんぎ規定等に基づき意思決定がなされている。
- ・りんぎ書以外の決裁書において、一部中間職制の決裁のないケースがあったが、各部で周知徹底し、また購入依頼書の押印欄の追加により解消されている。再発防止のため引き続き徹底を図る。
- ・決裁サイクルについては、今後も管理職教育を実施し徹底を図る。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

2-7 情報システム化

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	各業務のシステム化は業務効率化を目的に費用対効果を考えて実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生情報管理システムを基に、学籍管理、教務、就職等のシステムを連動させ運用している。 ・学生指導や帳票の発行など必要に応じてタイムリーな活用が出来ている。 (成績指導、出欠指導、成績通知書発行等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍管理システムを中心に成績・出欠管理及び就職管理・入試をシステム化しており、データを学生指導に活用している。 	なし

中項目総括

- ・募集・入試・学籍・成績・出欠・就職・会計・給与の基幹業務はシステムにより効率化が図れており、特に学生情報に関してはデータを共有化して学生指導に活用している。
- ・ハード、ソフトの更新、保守料など維持・管理にコストがかかるため、随時見直しによるコスト低減が必要である。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

3-8 目標の設定

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
3-8-1 理念等に 沿った教育課程 の編成方針、実施 方針を定めている か	教育目標に基づき、目標・運 営方針を定める	なし	・設立時の基本ポリシーとして 「目的・目標・運営方針・取組姿 勢」を明確に定めている。	なし
3-8-2 学科毎の 修業年限に応じ た教育到達レベ ルを明確にして いるか	自動車整備科(2年間)・高 度自動車科(4年間)共に修 業年限に応じた到達レベルを 明確に定める	なし	・自動車整備科(2年間)・高 度自動車科(4年間)共に修業年 限に応じた到達レベルを明確に 定めている。	なし

中項目総括

・設立時の基本ポリシーとして「目的・目標・運営方針・取組姿勢」を明確に定めている。また、自動車整備科・高度自動車科共に「育成ビジョン」も明確に定めている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
育成ビジョンは学生へはどのように開示し周知しているのか？	自整科においては4月のオリエンテーションにて説明、高度科においては4月の合宿で説明している。

3-9 教育方法・評価等

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	開校時からの教育目標の達成に向け教育課程を編成する必要がある	なし	・国家2級取得を目指した「自動車整備科(2年課程)」と国家1級取得を目指した「高度自動車科(4年課程)」の教育課程を編成。	なし
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	「入学してくる学生変化」「就職する社会環境の変化」に柔軟に対応するため、定期的に外部の意見を聴取し、カリキュラムの改善に取り組む必要がある	改善の取り組みとして、以下の項目を実施予定 ・新入生保護者会の検討 ・HVステップ教育の取り入れ ・電気授業時間の増加 ・登録対策授業時に作業の振り返り実施(2年生) →新入生保護者会、HVステップ教育は予定通り実施 →電気授業は年度末に増加予定 →上位学生(90名)を対象に作業習得授業を実施	・教育課程編成委員会および学校関係者評価委員会を開催し、外部の意見を反映させている。 ・新入生保護者会を5月に実施。	外部の意見として次のものがある。 ・電気授業の強化 ・作業習得の向上 ・最新技術(燃料電池車や運転支援システム)への対応
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	自動車業界・販売会社の役割の理解から、企業での実体験を通じて職業人になるという自覚や態度を涵養する	・高度自動車科においては、キャリア教育に加え、モチベーション向上のための教育を検討。 →高度自動車科の4年一貫のキャリア教育プランを策定し試行。	・自動車整備科は、一般教養科目の見直しを、1年次は「就職内定に向けた取組み」、2年次は「社会人に向けた取組み」を内容として実施中。 ・高度自動車科は、1年次は「4年生からの講話」、2年次は「卒業生からの講話」「販売店でのエンジニア体験」、3年次は「職種理解授業の充実」を実施している。 ・販売会社での「インターンシップ」は、両科とも実施。	・自動車整備科では、一般教養科目の全体像の見直しが遅れている。 ・高度自動車科では、4年一貫のキャリア教育プランの検証、改善を行う。

3-9-4 授業評価を実施しているか	学生アンケートや外部評価を定期的に行い、授業及び教員指導の改善をはかり、環境変化に柔軟に対応できるようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートの集計は、まだ遅いため、今後は集計速度と精度の向上に努めていく。 また、学生からの評価を真摯に受け止め、更に授業改善に努めていく。 →授業アンケート集計は、体制を整えスムーズに行われるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートを2回/年実施。授業評価に対する改善案を具体的に策定し、行動に繋がられるよう評価シートを改訂。 ・関連企業からは、職業実践専門課程における教育課程編成委員会にて、授業評価をいただいている。 	学生アンケートが授業改善につながるよう、単年のみならず過去からの推移の比較を行う。
--------------------	--	---	---	---

中項目総括
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の達成に向けた教育課程の編成はできている。また、教育課程編成委員会および学校関係者評価委員会を開催し、外部の意見も取り入れている。 ・自動車整備科の一般教養科目の見直しは、1年次「就職内定に向けた取組み」、2年次「社会人に向けた取組み」を内容として実施しているが、一般教養科目の全体像の見直しが遅れている。 ・高度自動車科では、4年一貫のキャリア教育内容の再構築を検討し、授業を実施している。また、実施後の検証を行い、改善していく。 ・学生アンケートを2回/年実施し、授業評価に対する改善案を教員ごとに策定し、授業改善に努めている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
<ul style="list-style-type: none"> ・外部の意見や学生アンケートの要望などを教育方法に反映を引き続きお願いします。教育目標も必要に応じ見直しをお願いいたします。 ・作業習得授業は2年生の後半に成績上位者に対して行っていると思うが、成績下位の学生にも実施する必要があるのではないかと？電気の授業は年度末ではなく基礎が習得できるように年度の最初に行えないか？また、自整科のキャリア教育において社会人に向けた取組みはどのような取組みをされているのか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売店さんの要望も必要に応じ対応していきたい。 作業習得授業は今後、成績下位の学生においても実施できるように授業の時間配分を見直していきたい。なお社会人に向けた教育は早期退職防止に向けた取り組みを中心に行っており、今後も一般教育については随時見直しを行っていきたい。 ・早期退職の主な理由は給与等の処遇と人間関係である。処遇については会社内でキャリアを積む事で上がっていくことなどを教えている。また、人間関係の大切さについても教育している。今後も様々な取組をしていきたい。

3-10 成績評価・単位認定等

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	「履修成績評価基準」「修了判定要領」「成績評価(ランク)」についての基準を明確化し、適切に運用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基準に基づき、運用できている。しかし、自動車整備科では、同一学生が定期試験で多科目不合格を繰り返すことが問題。 ・高度自動車科では、修得試験合格に向けた授業改善を実施しているが、授業についていけない学生も見受けられるため、対策が必要。 →自動車整備科では、プロジェクトチームによる低学力者個別指導を実施。 →高度自動車科では、授業時間内に低学力者個別指導できる層別授業枠を新設。	<ul style="list-style-type: none"> ・基準に基づき、運用できている。 修了認定は学則に明記し、認定会議で決定している。 <ul style="list-style-type: none"> ・低学力者個別指導による学力向上策も実施。 	なし
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	—	—	—	—

中項目総括

- ・成績評価・修了認定基準を明確にし、基準に基づき運用できている。
- ・低学力者個別指導による学力向上策も実施している。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

3-11 資格・免許取得の指導体制

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけている 高度自動車科3・4年次は、シラバスにおいて「国家1級自動車整備士」「トヨタ検定2級」「トヨタ業務認定D級」「ビジネス能力検定2級」取得を明確に位置付けている	・「第2種電気工事士」資格取得に向けた取組を検討する。 →高度自動車科3・4年の希望者対象に授業時間外で実施。	・国家1・2級自動車整備士資格をはじめ、各種資格取得に対して、教育課程上で明確に位置付けている。 ・高度自動車科では新規に次の資格取得を実施。 ・3・4年 第2種電気工事士(希望者) ・1年 漢字検定準2級 ・2年 文章検定準2級	なし
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	「国家2級自動車整備士資格」は、1・2年次。「国家1級自動車整備士資格」は、3・4年次での資格取得計画を定める	・今年度の取り組みを評価し、改善していく。 →国家2級自動車整備士資格は100%の合格率、国家1級自動車整備士資格は、81.8%の合格率。	・1・2年次、3・4年次共に、計画に基づき、運用できている。 2級は、昨年のノウハウの引き継ぎを実施。 ・1級は、出題傾向の変化と学生の弱点分野を把握し、対策授業を実施。また、新規問題対応のため、教科書の整理ノートを作成し、理解度向上を図る。	・4年一貫教育の見直しにおいて、3・4年次の2年間で国家1級資格相当の知識・技術・技能の習得ができる授業計画の策定が必要。

中項目総括

- ・目標とする資格・免許の明確化はできている。
- ・平成27年度より高度自動車科対象に、第2種電気工事士、漢字検定準2級、文章検定準2級の受験を実施。
- ・資格・免許の指導は、各学年計画に基づき実施できている。ただし、1級自動車整備士資格の合格率向上のため、3・4年次の2年間で国家1級資格相当の知識・技術・技能の習得ができる授業計画の策定が必要。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
・自己点検評価シート「中項目総括」表現を直したほうがよい。	・来年度以降計画するに表現を改めます。
・トヨタ検定3級に関して、取得は目標とし明記されているが、学生に対して3級の技術レベルについて意識づけがあまりされていないと思う。	・ご指摘の通りトヨタ検定3級は卒業と同時に取得できるため、学生への意識づけは不十分であったが、今後はトヨタ検定3級レベルでは何ができる必要があるのかをしっかりと指導していきたい。

3-12 教員・教員組織

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	一種養成施設指定基準の教員要件を満足している教員が授業実施。	なし	学校職員・関連業界からの出向教員共に確保できている	なし
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	教員としてふさわしい知識・技能・技術・教養の向上ができるよう定期的な研修を行うと同時に自己啓発に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車に関する専門知識はあるが、教育学に関する知識が乏しく、資質向上への教育は不十分。 ・幅広い教養や見識を身につける制度を検討。 →階層別研修・教員研修会に加え、中堅職員対象に異業種との交流、活字を読む習慣をつける取組みを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術理解のため、トヨタ自動車技術講習を受講し、全教員に展開。 ・学生指導力向上のためのコーチング研修等も継続的に実施。 ・教員個人との期首面談時に、自己啓発の取組み計画を確認しながら進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の国家1級資格取得推進のため、取得に向けた勉強会等の支援が必要。 ・教員個々の授業力向上のため教員間の授業見学(楽楽会)活動の推進を行う。
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	一種養成施設指定基準に則り、担当教科毎に2名を配置し、教育課程毎に教員体制を整備する。 また、学生支援の充実に向け、クラス担任を2名配置する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの引き継ぎについては、年度末に時間を設定し、確実に実施する。 →習得目標、レスプランを明確に作成しファイリングすることで、確実な引き継ぎを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業については担当教員2名、クラス運営については担任教員2名体制で指導している。 	なし

中項目総括

- ・教員の資格要件は満たせており、教員数も確保できている。
- ・新技術理解のための技術講習、学生指導力向上のためのコーチング研修等を継続的に実施。また、自己啓発についても支援体制を整え推進。
- ・教員の国家1級資格取得推進のため、取得に向けた勉強会等の支援が必要。また、教員個々の授業力向上のため教員間の授業見学（楽楽会）活動の推進を行う
- ・教員組織体制は、各クラス2名の教員を配置し、授業・クラス運営共、確実にやっている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
国家1級保有者の割合は何パーセント程度を目標にしているのか？また、教員の教育スキルの評価についての指標はどのように定めているのか？	教員の国家1級取得者は36名であり75%になっており、今後も100%を目標に取得促進を行っていく。 教員の資質は能力考課において基準を定め評価している。今後も研修及び自己啓発を促進し資質向上に努めていく。
引き継ぎに関しては「確実に実施できている」と記載されているが、どの程度のレベルで「確実」と評価しているのか？	まだまだ引き継ぎについては課題が残っているため、「確実な引き継ぎができるよう年々改善していく」と表現を改めます。
「楽々会」とはどのような会か？	「楽しく楽しい授業を作ろう会」の略だが、教員の授業力を向上させるために他の教員の授業を見学し相互に良いところを学ぶことを中心に活動している。

4-13 就職率

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
4-13-1 就職率の向上が図られているか	・部方針で到達目標(100%)を設定	・採用試験合格の難しい学生に対し、就職個別指導等を行っているが、第1希望での合格ができるよう、就職先の適正アドバイスや求められる素養を高める対策が必要。 →入社後のミスマッチを無くすため、企業訪問の重要性について朝礼時に就職支援Gから展開した。 →第1希望内定率は、92.5%。	・就職率100%達成に向け、以下の内容に取り組んでいる。 ・就職対策講座の実施。 ・企業採用担当者による講演実施 ・夏休みの企業訪問や就職個別指導などを行っている。 ・高度自動車科では職業理解として2年次に卒業生講演、3年次に関連企業による授業を実施。	・就職未内定者が自動車整備科に1名いる。

中項目総括

- ・就職率100%に向け、就職対策講座や就職ガイダンス、職業理解授業等を実施している。
- ・また、会社説明会、企業研究セミナー、個人訪問などに参加させ、企業研究を促している。
- ・採用試験合格の難しい学生に対し、就職先の適正アドバイスや求められる素養を高めるため、就職活動個別指導を実施している。
- ・トヨタグループ各社からの堅調な求人を背景に、例年トヨタグループへの高い就職率を実現している。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
全体の内定率は上がってきているがトヨタグループの内定率が 1.5 ポイント低下しているがなぜか？	・トヨタグループへの内定率は 1.5 ポイント低下しているが、人数にすると 6～7 名程度となる。前年度はヤナセさん・マツダさん・損保会社などの希望者がいた。理由はどうしても他メーカーが良いと希望する学生やトヨタ販売店を不合格となった学生が就職している。 ・できるだけトヨタに就職するように指導はしているが、最終的には本人の希望する企業を受験している。
・学生の履歴書を見ていると誤字の書き直しが不適切であるなど基本的な事柄について指導が不足していると思われる。	・指導が不十分であるとの指摘については、教員に対してしっかりと教育していきます。

4-14 資格・免許の取得率

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	自動車整備士国家資格をはじめとして、業務上必要な資格取得、また社会人として必要なスキルを身に付けるための資格取得を促進する教育を行う。	・資格取得率100%達成に向けて試験や学生の習得度を分析し適切に指導する必要がある。 →資格試験の出題傾向(新規問題、変更問題など)を分析し、それらに対応できるよう基礎固めに重点を置き授業を実施した。また、学生の習得度を把握し、習得度別のクラス編成や個別指導を行った。	・高度自動車科、自動車整備科とも資格試験の分析や学生の習得状況の把握分析ができるよう、資格取得支援計画を策定している。	・1級整備士資格の取得率が100%を達成できていない。

中項目総括

- ・設置学科(高度自動車科・自動車整備科)に応じた資格取得にむけ、カリキュラムに盛り込み、取得率100%に向けた改善に取り組んでいる。
- ・1級整備士資格の取得100%を達成できていない。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

4-15 卒業生の社会的評価

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生の頑張りや、昇進・昇格情報を在校生にフィードバックし、学生指導に活かす。また、当校の教育の至らない点などは教育改善に反映させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先企業からの評価は、今後定期的 to 実施し、教育改善に反映させていく。 →H25年度、就職先全販売店に対し、卒業生現況調査アンケートを実施し、平成26年度、入社3年以内で退職した卒業生にアンケートを実施した。 →アンケートは3年ごとに実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生アンケートを3年ごとに実施し、社会的評価を把握している。 ・卒業生の技術コンクール出場等の活躍事例を在校生に紹介している。 ・卒業生の早期退職防止に向け、労働条件、人間関係に関する授業を自動車整備科2年で追加した。 	なし

中項目総括

- ・教育内容の改善や学生指導に活用するために、定期的に卒業生アンケート調査を実施し、卒業生の社会的評価を把握している。また、企業ニーズに応じた人材育成に取り組んでいる。
- ・卒業生の技術コンクール出場等の活躍事例を在校生に紹介している。
- ・入社3年以内で退職した卒業生にアンケートを実施し、「労働条件」「人間関係」「将来への不安」の退職理由3大要因を把握し、平成26年度企業研究セミナーでも企業へ展開した。
- ・平成27年度、卒業生の早期退職防止に向け、労働条件、人間関係に関する授業を自動車整備科2年で追加した。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
早期退職の防止に向けて、労働条件・人間関係に関する教育を実施しているとのことだが、その効果確認を卒業生に対してアンケート調査を実施してはいかがか？	・今後も卒業生に対するアンケートにて引き続き実施していきたい。 ・早期退職防止については学校だけで解決できる問題ではないので、販売店と一緒に取り組んでいきたい。
・メンタル不調を訴える新入社員が当社では毎年1～2名発生しているが、卒業生の調査ではどのような結果となっているか？	・退職理由の調査では「メンタル不調による退職」については調査できていない。本人が答えにくい項目でもあるため販売店へのヒアリング等でできるだけ把握していきたい。 ・卒業生に対するアンケートに「メンタル不調」の項目を追加することを検討したい。

5-16 就職等進路

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	学生の適性に応じた就職先に就職できるよう、学生の就職活動を支援・指導する体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の負荷、指導の重複・ばらつき等が見受けられているため、就職支援グループと担任・管理職の役割の区分けが課題と考え、支援策の4Sをしていく必要がある。 ⇒ 動機付けなどの重要案件に対しては朝のホームルームを利用し、就職支援グループが情報発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任との連携を密にするため、教育部内に就職支援専任スタッフを配置している。 ・就職意識が低い学生に対しては、管理職による個別指導体制をとっている。 ・未内定学生には、次の進路情報を迅速に展開し、提案、指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職後の早期退職削減のための教育・支援体制の充実を図る。

中項目総括

- ・就職支援体制として、より担任と連携を密にとるため、教育部内に就職支援専任スタッフを配置している。また、個別指導の必要な学生には管理職も加えた支援体制を整えている。
- 就職未内定者については、迅速に次の進路情報を展開し、提案・指導を実施している。
- ・重要案件の学生情報発信は就職支援グループが朝のホームルームを利用し発信している。
- ・3年以内の早期退職者削減に向けた体制の充実を図る。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

5-17 中途退学への対応

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-17-1 退学率の低減が図られているか	入学した学生は責任を持って教育し、全員の卒業を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に授業を理解させるための学力向上。 ⇒4科目以上不合格を連続して繰り返さないため、個別勉強会を実施。 ・夢の持てるキャリア教育の改善。 ⇒高度自動車科は、4年一貫のキャリア教育授業を実施 1年次：4年生からの講話 2年次：卒業生講演 3年次：職業理解授業の業種を増加（6→9） 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振による脱落者減少に向け、1、2年生の4科目以上不合格を繰り返す学生は、電装、工学に絞って個別勉強会を実施。 ・キャリア教育の充実に向け、高度自動車科では、 2年次：販売店での職業体験授業を追加。 3年次：職業理解授業の業種を9→11業種に増加。 	なし

中項目総括

- ・成績不振による脱落者減少に向け、1、2年生の4科目以上不合格を繰り返す学生については、電装、工学に絞って個別勉強会を実施
- ・高度自動車科のキャリア教育は、昨年実施項目から更に改善
2年次：販売店での職業体験授業を追加
3年次：職業理解授業の業種を9→11業種に増加

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
理解度の低い学生への対応等は中途退学者の減少に効果が表れていると思うので引き続き取り組みをお願いしたい。	了解しました。
中途退学後の学生の進路はどのような状況か？	高度科3年生で退学する場合は国家2級を取得しているもので8～9割はトヨタ販売店へ就職できるように対応している。自整科の学生については本人が整備士以外の進路を希望する以外は、トヨタ販売店を紹介するなど対応している。
高度科3年次の職業理解の授業はどのような点を見直したのか？	日野自動車とダイハツの販売店を追加している。

5-18 学生相談

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	担任が学生の相談・指導を実施する。また、学生の心のケアに関しては、教員以外に気軽に悩みなどを相談できる体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師とカウンセラーが連携して学生相談に応じているが、更に密に連携して対応するために保健室から直接相談室へ出入りできるようレイアウトの見直し検討が必要。 ⇒保健室内を改修し面談コーナーを設置。	<ul style="list-style-type: none"> ・担任教員がコーチングなど指導力を向上するよう努めている。毎朝ホームルームを行い、学生の状況を把握している。 ・初期の心のケアは保健室で対応し、必要に応じ相談できるよう相談室にカウンセラー（臨床心理士）を配置している。また、看護師に対しても心理相談の研修・資格取得支援を行っている。 ・看護師・カウンセラーが教育部各室長と学生情報を共有し連携して早期に対応を図るようになっている。 	なし
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生が入学した場合でも相談ができる体制を整えておく	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語能力の向上・日本企業への就職支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、教科担当、該当学年室長、就職支援グループで対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生受入体制のノウハウを蓄積する必要がある。

中項目総括

- ・担任教員がコーチングなど指導力を向上するよう努めている。毎朝ホームルームを行い、学生の状況を把握。
- ・初期の心のケアは保健室で対応し、必要に応じ相談室にてカウンセリングが受けられるようカウンセラー（臨床心理士）と連携している。看護師に対しても心理相談の研修を実施。
- ・看護師・カウンセラーが教育部各室長と連携して学生相談に対応。
- ・留学生受入体制のノウハウを蓄積することが必要。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
カウンセラーを配置しているとのことであるが、担任など身近な教員が細かく声掛けした方が予防策として有効ではないか？	・年2回の面談とは別に、授業中に気になった学生については教科担当から担任に連絡し早めの対応ができるようにしている。相談体制については担任だけでなく看護師・カウンセラーと一緒にいるなど工夫している。 ・1年生については入学時点の「健康調査票」でメンタルに関する項目があり、気になる学生については看護師が保健室にて確認するようにしている。

5-19 学生生活

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学生・寮生の負担を軽減する措置を講じる。また、就学が困難となった場合においても学業継続できるように個別対応を行う。	なし	・特待生制度(学費減免)を実施。 ・必要な場合は学費・寮費の延納・分納の個別対応を行っている。さらに、延納分納期日までに支払えない学生に対しては延長や一部卒業後の返済も認めている。	現状の奨学金制度以外にも新たな学費・寮費の支援制度を検討する必要がある
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学校保健安全法に基づき学生の健康管理を行う。	なし	・保健室に学校医・看護師、相談室にカウンセラーを配置している。 定期健康診断の他、心身の健康管理についての対応を適宜学生に行っている。	なし
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	遠隔地から就学してくる学生のために学生寮を設置する。	・寮で「夜騒がしい」との苦情があり、マナー指導を継続して行う必要がある。 ⇒27年度は4月に寮の上級生に対してマナー指導を実施。 ⇒「夜騒がしい」等苦情には寮監が随時注意指導。	・431室(含む女子7室)の寮を学校敷地内に設置。(期首:満室) ・寮監が常駐・宿直勤務しており快適な寮生活ができる体制を整えている。	なし
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生が主体的に活動できるようクラブ活動を支援する。	野球部以外は活発な活動が行われておらず、活性化が必要である。 →水泳同好会、自転車同好会を発足	・開校以来クラブ事務局を置き、クラブ活動を支援(補助金、顧問)している。 H27年度は水泳同好会、自転車同好会が部に昇格し、クラブ数は13→15となった。	なし

中項目総括

- ・経済的支援としては学費・寮費の延納分納を個別に対応しさらに延納分納期日までに納付できない場合は延長や一部卒業後の納付を認めている。
- ・保健室に学校医・看護師、相談室にカウンセラーを配置し、学生の心身の健康管理を行っている。特に感染症、熱中症、インフルエンザ予防に毎年計画的に取り組んでいる。また、H27年度より入学前のインフルエンザ予防接種を推奨している。
- ・431室（含む女子7室）の寮を学校敷地内に設置し、寮監を常駐させている。設備面ではH23・24に全面リニューアルを実施し快適化を図った。運営面では寮生に対しマナー指導を継続実施して快適化を図っている。
- ・クラブ事務局を置き、クラブ活動を支援（補助金、顧問）している。
- ・H27年度は水泳同好会、自転車同好会が部に昇格し、クラブ数は13→15となった。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
・販売店のお話を聞いていると、サービスエンジニアの半分程度が整備に興味があって就職しているわけではないと聞いているので、クルマ好き、整備好きにつながる課外活動を引き続きご検討をお願いしたい。	・ご指摘の通り検討していきます。

5-20 保護者との連携

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-20-14 保護者との連携体制を構築しているか	効果的な教育を展開するには保護者からの支援が必須である。そのため、保護者との連携体制を密にする	・保護者会や保護者向け学校見学会の実施。 ⇒教育方針の理解促進、学校見学、担任との個別面談、進路相談を行う、新入生向け保護者会を企画	・保護者には期末に学生の成績表を送付している(2回/年) また、必要に応じて保護者には来校、書簡発送、電話相談を実施している。 ・平成27年度より新入生向け保護者会を実施している。	他学年の保護者会実施など検討

中項目総括

- ・保護者には定期的に成績表を送付(2回/年)しているほか、学生に問題が発生した場合、適宜保護者と連絡を取りながら問題解決を実施
- ・平成27年度より新入生向け保護者会を実施

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

5-21 卒業生・社会人

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	当校卒業後も卒業生に対し、必要な支援体制を整え、学校情報提供や支援を行う	・離職者への組織的な再就職支援。国家試験不合格者全員への支援。 →離職者から連絡があった場合は支援を行っている。(1名) →国家1級不合格者2名に対し、毎月勉強会を実施。	・卒業生に対し、国家資格取得支援、各種証明書等の発行を行っている。 ・卒業生の再就職支援は引き続き実施。 国家1級不合格者は、販売店とも連携し支援を行っている。	・国家試験不合格者の支援を行っているが、全員は合格できていない。
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	—	—	・取り組んでいない	—
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	一種養成施設としては、社会人が働きながら就学できる環境はない。販売店の新人教育など短期研修は企業と相談のうえ実施する。	なし	・社会人の入学実績無し。 ・販売店新人研修の受け入れは行っている。	なし

中項目総括

- ・卒業生に対し、国家資格取得支援、各種証明書等の発行を行っている。
- ・離職者から連絡があった場合は個別に再就職支援を行っている。
- ・国家試験不合格者の支援を行っているが、全員は合格できていない。
- ・社会人の入学実績無し。販売店新人研修の受け入れは行っている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
整備士不足が懸念されているため、中途退職した卒業生に対して再就職支援を行うことで人材がトヨタグループに留まることができるという意見が販売店さんからもあるが、学校ではどのように考えておられるか？	現在、退職した卒業生から相談があった場合には個別に再就職支援を行っている。しかし、再就職支援を公に行うことで販売店間の異動を助長することになりかねないので、販売店の賛成は得られないのではないかと思います。販売店の意見を聞きながら検討していきたい。

6-22 施設・設備等

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	法令等の基準を遵守し、教育上の必要性に十分対応し、かつ、学生が快適に学習に専念できる環境を整備し、維持管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる夏季の学生の暑さ対策として、夏用実習服の生地変更を計画中。 ・教材の老朽化に対する対応が必要。また、学生アンケートにロッカースペースが狭いとの不満があり、設備を含め検討していく →平成26年度、実習服の改良を行った。 →ロッカー室の狭さは、27年度中に増床し28年度以降解消予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令の設置基準に基づき施設・設備・教育用具をそろえ、計画的な更新、衛生管理も行っている。外部業者による機器点検は、計画に基づき確実に実施されている。 ・施設・設備等の日常点検、定期点検を実施しており、点検後の不具合箇所についても適切に対応している。 ・快適な学習環境整備のため、図書室・食堂・エアコン付きの休憩コーナー・売店を設置している。 ・平成27年度に図書室の閲覧スペースを自習できるよう改修した。 	なし

中項目総括

- ・建物設備は専修学校設置基準及び一種養成施設設置基準を満たしている。また、建物については、耐震基準を満たしており、建物や設備等の更新も計画的に行っている。
- ・施設・設備等の日常点検、定期点検を実施しており、点検後の不具合箇所についても適切に対応している。
- ・快適に学習できる環境整備のため、実習・学科教室・図書室に加え、食堂・休憩コーナー・売店も設置し、衛生管理、定期的な保守点検も行っている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
学生からのアンケートで苦情のある施設については対応されておられるが、エアコンの設置等を検討されてはいかがか？	冷房については販売店の環境の変化を見ながら対応を考えていきたいが、現状は必要ないと考えている。

6-23 学外実習・インターンシップ等

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ（前年度評価時）課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習等において、実習機関と連携を取り、十分な成果が上がるよう教育体制・環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> ・自整科のインターンシップについては、受け入れ先企業の実施期間が短い企業がある。（7日間以上の企業95社中60社） また、実習内容も、企業ごとにバラつきがある。 →7日間実施の依頼を行った。 →7日間の受け入れモデルカリキュラムを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車整備科2年次および高度自動車科4年次に、各学生の内定先企業においてインターンシップ研修を実施している。 ・高度自動車科4年次に海外研修を実施している。 ・平成27年度、自整科インターンシップで7日間以上実施いただいた企業は、94社中79社（84%）と増加した。また、実習内容も改善されている。 	自動車整備科のインターンシップにて、継続して期間延長を依頼していく。

中項目総括

- ・学生の内定先企業において、カリキュラムに定めた期間のインターンシップを自整科2年次および高度科4年次に実施している。また、高度科4年次には海外研修を実施している。
- ・自動車整備科のインターンシップ実施期間について、7日間以上実施の依頼を行った。また、7日間の受け入れモデルカリキュラムを作成した。
- ・インターンシップにて、受け入れ先企業の実施期間が短い企業があり、継続して期間延長を依頼していく。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
クルマ好き、整備好きやコミュニケーション力向上につながる学外実習につきましても引き続きご検討をお願いいたします	検討していきたい。
インターンシップの実施内容については詳細な実施要領をいただいているが、販売店に期待することはどのような点か？	インターンシップは、授業で学んだことと実際の現場との関連及び違について身をもって体験し、「知っている」と「出来る」との差を体感させることを目的に実施している。また、職場の雰囲気を感じ先輩方との人間関係を作ることによって早期退職の防止にもつながることを期待している。なお、実施後にはインターンシップでの体験を踏まえ、残りの学生生活での目標・課題を設定するように指導している。以上の目的等を踏まえて実施内容を検討いただけるようお願いします。
販売店以外のインターンシップ先はどのような企業か？	94 社中 2 社が販売店以外となっている（F Tテクノ・J A F）。高度科は認証工場でのインターンシップが義務付けられている。

6-24 防災・安全管理

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	法令に基づき体制を整備し 防火防災に努める	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練と震災想定での防災訓練を効果的、効率的に実施できる様改善を図る。 ⇒H27 は職員はヘルメット・各役割を表示したビブスを着用、学生・教員は避難時に着帽を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災管理体制を整備し日常の管理を行っている。 ・職場防災隊を組織し、防災訓練を実施している。(H26より火災、地震各1回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災発生時に学生の帰宅・宿泊などの対応について具体的な検討とマニュアル化が必要。
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	実習作業における危険作業や事故防止のため、あらかじめ事故、怪我の発生防止策を講じる	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者の侵入防止のため来校者は受付で入校許可証を交付し携行するよう定めている。また校内主要箇所に防犯カメラを設置している。 ・事故、怪我防止の啓蒙ポスター掲示、授業中は危険作業等について事前に説明されている。 ・授業内外の事故、怪我発生時の報告フォーマット、フローは確立でき、ヒヤリハット案件も安全衛生委員会にて報告、再発防止策を講じている。 	なし

中項目総括

- ・ 防火・防災管理体制を整備し日常の防火・防災管理を行っている。平成26年度より、法令に基づき消防訓練及び防災訓練を各1回／年実施。
- ・ 震災発生時の具体的な対応について検討とマニュアル化が必要。
- ・ 不審者の侵入防止のため来校者は受付で入校許可証を交付し携行するルールを定めている。また校内主要箇所に防犯カメラを設置している。
- ・ 安全管理者の選任、安全計画の作成・実施、安全衛生環境委員会の設置により、安全管理体制を整備している。授業内外の事故・怪我の発生、ヒヤリハット案件については発生都度報告・再発防止策を講じている。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
安全については販売店においても重要視している。多治見の研修センターに安全を体験できる施設があったが、学校においても同様の設置を検討してはいかがか？	「安全」については非常に大切な教育項目であるため、しっかりと教育を行っていきたいが、体験型の設備となるとかなり大がかりな設備となってしまうため実現は難しいのではないかと思う。

7-25 学生募集活動

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	入学試験要項記載の応募資格を満たす対象者が在籍する教育機関に情報を開示、提供し、当校理解の促進を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性に応じた学校説明が不十分 ⇒地域特性を考慮した説明資料を作成 ・担当者による説明内容の標準化が不十分 ・高校訪問時の説明資料が不十分 ⇒訪問前に担当者説明会を実施し説明内容の意思統一を図った 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 H/P にて学校案内を公開 ・「学校案内」作成と配布 ・指定校を中心とし必要と考えられる高校に対して最大限高校訪問実施 ・高校進学相談会参加 ・学校説明会、OC での高校教員対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・当校の特徴をよりわかりやすく表現した資料及びホームページに改訂
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	入学定員を満たすべく、学校活動の内容を紹介する機会(オープンキャンパス)等を通じ、事実に基づく広報活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・より満足度の高いイベント実施に向けた改善 ⇒来校者の満足向上に向けイベント終了ごとに反省会を行い継続的に改善を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、体験入学、学校説明会、入試相談会の機会提供を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・当校の教育の特徴がより伝わるような工夫が必要

中項目総括

応募資格を満たす対象者に対し、入学定員を満たすべく募集活動を実施。募集活動に際しては、高校生、高校、保護者、企業というステークスホルダーに対し真摯に向き合い、法令順守はもとより、事実に基づいた広報の展開を実施している。またオープンキャンパスなど直接接触する機会を重視し、当校理解の促進を図っている。また今後学校評価を整備し情報公開に努める必要がある。
⇒学校評価を整備し情報公開を行った。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
<ul style="list-style-type: none">・ 中学校・高校へ販売店が出向き業界・職業の PR を行うことで学校の先生も安心されると思うため、販売店と一緒に活動をしていってはいかがか？	<ul style="list-style-type: none">・ 地域によっては販売店の希望に基づき販売店と一緒に高校訪問を行っているケースがある。先生が職業を理解して整備士になることを生徒に勧めることはあまり期待できないため、生徒に直接興味づける活動を重点に行っていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none">・ 幼稚園児などを対象にイベントを実施されてはどうか？・ メーカーとしては販売店に対して職場体験事例集を作成し配布している。また、小学生を対象にしたイベントを全国各地で開催している。	<ul style="list-style-type: none">・ 近隣中学校の2校からトライやるウィークを受け入れている。学園祭においては小さいお子様が楽しめるようなイベントを行っており、たくさんのお子どもたちに楽しんで頂いている。

7-26 入学選考

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準を規定で明確に定め、入学試験要項上に記載し適切に運用する	<ul style="list-style-type: none"> ・新面接シート、評価要領について、平成 27 年度生入試終了後評価し必要に応じて改善実施。 ⇒記入項目を小変更し 28 年度生入試に運用 ・最適な入試の実施に向け入試要項の見直し ⇒募集施策に合わせて変更実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学選考基準（編入学も含む）に基づき入学試験を適切に実施 	・なし
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学選考に関する実績情報を正確に管理し、入学後の授業運営や、財務計画策定等に反映する。	<ul style="list-style-type: none"> 自動車整備科・高度自動車科ともに低学力入学者の入学後の成績状況を追跡し PDCA をまわす。 ⇒高度科入学後の成績を追跡調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント動員数を指標として入学者数予測を実施 ・各日程において、学科ごとの合格数、辞退数を管理しタイムリーに総務部へ反映 ・入学者の入試での成績をしっかりと管理し教育部にて活用 	なし

中項目総括

入学選考においては、受験生に対し「求める人材像」「選考方法」を提示した上で、明確な合格判定基準に照らし合わせ、理事同席のもと厳正に合否判定を実施している。また入学者数が決まる 3 月末までの合格者数、辞退者数、及び入学予測数を管理し財務、教育に反映している。最適な入試形態をめざし常に改善をすすめている。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

7-27 学納金

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	他校の動向・相場及び学校全体収支を勘案し決定する 収入の範囲内で必要な教育が行えるように努力し学生の負担を減らす。	更に効率化に努めて、学生負担の軽減に努める。 ⇒H27年度より寮費を減額改定した。	経費削減に取り組み学費・寮費及び預り金の低減努力を行う。	なし
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	文部科学省通知に基づき適正に取扱う	なし	3月末までに辞退の申し出があった場合は入学金以外全額を返金している	なし

中項目総括

- ・学費・寮費及び預り金は、他校の動向・相場を勘案して決定し、教育水準の維持向上を図るとともに学校全体収支が適正になるよう更に効率化に努めて、学生負担の軽減に努める。
- ・26年度より寮個室のCATV利用料を無料化し、寮預り金を減額。さらに27年度より寮費を減額した。
- ・入学辞退者に対しては文部科学省通達に基づき適正に対応できている。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

8-28 財務基盤

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	定員確保に努め、単年度収支黒字の維持に努める。 中長期的に必要な施設設備に必要な資金を留保する。 資金は安全確実な運用を行う	・さらに18歳人口が減少するため、財務基盤のさらなる強化が必要。 ⇒H26年度決算で創立来の累積赤字を解消した	・中長期的に必要なとなる施設設備に必要な資金は留保できしており、社債等で運用している。 ・借入等負債はなし	なし
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	主要な財務数値について財務分析を行い参考情報として活用する。	・事業収支は基本的に黒字で経営していく ⇒H26年度決算も単年黒字を継続できている	・単年度事業収支が黒字となるように予算を立案・執行している。 ・主要な財務数値の分析を適宜行っている。	なし

中項目総括

- ・将来の設備投資・更新に必要な資金は留保できしており、財務基盤は安定している。資産は安全確実な社債等で運用を行っている。
- ・主要な財務数値の分析を適宜行っている。
- ・事業収支（受取利息収入を除く）は基本的に黒字で経営していく。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

8-29 予算・収支計画

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	単年度ごとに事業計画・予算を立案する。	中期計画の策定については今後検討が必要。	・次年度事業計画と同時に部門別に年度予算案立案を行っている。 ・中期計画は、予定表を作成・更新し、これに基づき毎年事業計画・予算立案。	なし
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	予算は計画に従って執行している。 月次・中間決算により予算と実績の正確な管理をしている。	なし	・予算計画に従って執行できている。一部予算外の場合が生じた場合は科目間の流用を認めており、総額予算は超過はしないようにしている。	なし

中項目総括

- ・事業計画・予算は単年度ごとに立案している。
- ・中期計画は、予定表を作成・更新し、これに基づき毎年事業計画・予算立案。
- ・予算は計画に従って適正に執行できている。一部予算外の場合が生じた場合は科目間流用を認め、総額予算は超過しないようにしている。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

8-30 監査

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
8-30-1 私立学校 法及び寄附行為に 基づき、適切に監査 を実施しているか	監事及び公認会計士による監査を 実施する	なし	・監事に中間・期末決算報告と 事業報告を行い、理事会に監査 報告書を提出いただいている。 公認会計士による監査を1回/ 年実施している。	なし

中項目総括

- ・監事に中間・期末決算報告と事業報告を行い、理事会に監査報告書を提出いただいている。
- ・公認会計士による監査を1回／年実施している。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

8-31 財務情報の公開

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	法令通りに対応し公開を行う。	今後、毎年更新し公表する。 ⇒職業実践専門課程認定校として、学校HPで情報公開し、毎年更新する	・私立学校法に基づき利害関係者が財務諸表を閲覧できる体制は整備している。 ・さらに26年度消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表を学校HPにて公開している。	なし

中項目総括

- ・私立学校法に基づき利害関係者が財務諸表を閲覧できる体制は整備している。
- ・26年度より消費収支計算書・資金収支計算書・貸借対照表を学校HPにて公開することとした。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

9-32 関係法令・設置基準等の遵守

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ（前年度評価時）課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	関係所轄、企業、保護者等社会からの信頼を得る為法令順守を行う。教職員、学生に対しても法令遵守教育を実施し徹底する。	特に労働関係諸法令に関する研修は管理職に対して継続的に実施していく必要がある。 ⇒26年度より新任管理職に対して研修を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部が関係法令に基づき必要な諸届等を実施している。また各種規定も整備し、法改正に合わせ適宜改定を行っている。 ・学生に対しては、「法令違反事例集」を用いて法令遵守教育を実施。また、教務会案件、交通ルール、薬物、不正改造等機会ごとに教育を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人会計基準改正への対応。

中項目総括

- ・各部が関係法令に基づき必要な諸届等を実施している。また各種規定も整備し、法改正に合わせ適宜改定を行っている。
- ・学生に対しては、法令違反事例集を作成し、4月のオリエンテーションで教育を実施している。更に、機会あるごとに法令遵守教育（薬物、交通違反、不正改造等）を実施している。
- ・H27年度は学校法人会計基準改正への対応を準備している。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

9-33 個人情報保護

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報の漏洩は社会からの信用を失うことになるため、慎重に取り扱う必要がある。そのため規程を定め、適切に運用していく。	業務ごとの「作業手順書」のチェック、定期的な研修ができていない。 ⇒未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護規定を策定し、外部に個人情報保護方針を公表している。 ・学生、職員より個人情報利用の同意を得て運用している。 ・業者への業務委託は個人情報取り扱いの契約書・覚書を交わしている。 ・新入職員に対して、毎年研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務ごとの「作業手順書」のチェック、定期的な研修ができていない。 ・マイナンバー法、個人情報保護に関するガイドライン改正への対応が必要。

中項目総括

- ・個人情報保護規定を策定し、外部に個人情報保護方針を公表している。
- ・学生、職員より個人情報利用の同意を得て運用している。
- ・業者への業務委託は個人情報取り扱いの契約書・覚書を交わしている。
- ・新入職員に対して、毎年研修を実施している。
- ・業務ごとの「作業手順書」のチェックは未実施である。
- ・今後マイナンバー法、個人情報保護に関するガイドライン改正への対応が必要。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
作業手順書の定期的なチェックができていないと記載されているが手順書通りに業務が行われているのか？	定期的な研修を行っていないため、今後は実施していきたい。また、作業手順書も定期的に確認し職員にも徹底していきたい。
販売店と個人情報の授受を行っているが、個人情報に関する取り決めが明確になっていないため明確にしたほうがよい。	学生本人の同意を得たうえで、販売店とは一部慣習に基づき実施している部分もあると思うため、改めて実態を確認し対応を検討します。

9-34 学校評価

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	実施に係る組織体制を整備し、文部科学省のガイドラインに則して、毎年度実施	評価委員を単年で入れ替えないようにして評価スキル向上を図る ⇒各部管理職が評価委員となり、継続的に評価を実施。	毎年度実施。	なし
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	ホームページに掲載し公表する	今後毎年評価を実施し公表する ⇒26年度実施結果を公表。	毎年度公表。	なし
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	委員会を設置して、毎年度実施	今後毎年評価を実施する ⇒実施している	毎年度実施。	なし
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	ホームページに掲載し公表する	今後毎年評価を実施し公表する ⇒現在26年度実施結果を公表している	毎年度公表。	なし

中項目総括

・H25年度より毎年、委員会を設置し自己点検自己評価・学校関係者評価を実施、結果は学校HPにて公表している。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

9-35 教育情報の公開

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	学校はややもすると密室状態であり、保護者や社会から誤解が起こりやすい環境にある。その為、積極的に情報を公開していく取り組みが必要である。	・保護者会実施に向けた計画立案、保護者への案内方法等、スケジュールを立て実施していく。 ⇒効果的な保護者会を検討	・新入学生保護者向けに、教育方針、授業内容などを記載した書簡を送付している。 ・その他、学校案内や学校ホームページで概要や行事について公開している。 ・平成27年5月30日に第1回新入学生向け保護者会を実施。	・今回の保護者会アンケート結果より改善を図る。

中項目総括

- ・例年新入学生の保護者向けに教育方針や授業内容、指導面、担任名等を記した書簡を発送し、理解を得ている。その他、学校案内や学校HPで概要説明を公開している。
- ・積極的な公開に向けて、H27年5月に第1回新入学生向け保護者会を実施。

【学校関係者評価結果】

委員からの意見等	学校側コメント等
・保護者会のアンケートに基づく改善実施内容を教えていただきたい。	・5月30日に初めて保護者会を開催し、学生339名に対して保護者が189名参加していただいた。アンケートでは、90%以上の満足との回答を得たが、授業見学が短い・授業内容がわからないとのコメントがあった。また、クラス担任との面談を行ったが、予想より時間を要したため、改善を図りたい。

10-36 社会貢献・地域貢献

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	社会・地域貢献の観点から可能な範囲で実施する	・引き続き地域住民、関係機関等に対して施設設備の貸出などを検討・実施 ⇒27年度テニスコート改修に伴い新設したフットサルコートの外部貸出を検討中。	・販売店技術コンクールの会場として実習場を貸し出している。 ・地域住民、近隣学校の体育授業にテニスコートを貸し出している。 ・H26年度より地域の少年野球チームにグラウンドを貸し出している。 ・近隣中学生のトライやるウィークを受け入れている。 ・学園祭においては地域の方も楽しんでいただけるようなイベントを企画し実施している。	引き続き地域住民、関係機関等に対して施設設備の貸出などを検討
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	留学生の入学を受け入れ、資格取得、就職を果たさせることで国際貢献する		・今期実績：日本語学校のガイダンスに1回参加。留学生向けのガイダンスに1回参加	

中項目総括

- ・販売店技術コンクールの会場として実習場を貸し出している。
- ・地域の住民、近隣学校にテニスコート・グラウンドの貸し出しを行っている。
- ・近隣中学生のトライやるウィークを受け入れている。
- ・対留学生向けの募集活動量は少なく、過去入学実績も少ない。国内就職の実績もない為、ノウハウ蓄積を継続する。

【学校関係者評価結果】

特に意見なし

10-37 ボランティア活動

【自己点検・自己評価結果】

小項目	ア 考え方・方針・目標	イ (前年度評価時)課題と解決方向 ならびに改善の取組内容	ウ 現状・具体的な取組等	エ 課題と解決方向
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	学生に社会性を育む教育の一環として、ボランティア活動を奨励していく。	・今後も学校から呼びかけてボランティア活動を推進していく。 →自動車整備科1年選択授業(3月)で震災復興ボランティア13名、里山での間伐ボランティア52名が参加	・学校内での献血活動(2回/年) ・寮生による地域清掃活動に参加している。 ・選択授業でボランティア活動実施	なし

中項目総括

学校内での献血活動(2回/年)
寮生による地域清掃活動に参加している。
自動車整備科1年生は選択授業で震災復興ボランティア、里山での間伐ボランティアに参加

【学校関係者評価結果】

特に意見なし